



赤

心

第24号



11月

長野市立安茂里小学校

菊の盛りとなりました。学校でも、6年生が育ててきた三本仕立ての菊や5年生が育ててきた小菊が咲き誇っています。

先日の音楽会には、多くの皆様にご来校いただき、まことにありがとうございました。学校評議員の方々等にもお褒めの言葉をいただきました。当夜、お子さんは、お家でどのような表情でどのように音楽会を語ったのでしょうか。

さて、本校は、11月を人権教育月間（なかよし月間）として位置づけ、「学級内や学校内の人間関係を見直し、どの子どもも明るい気持ちで学校生活を過ごすことができるように」と取り組んでおります。また、11月20日（火）の授業参観を通して、子どもたちの人権感覚を育てる取り組みを、保護者の皆様に知っていただき、家庭と学校が一体となって子どものよりよい成長を助ける礎となればと願っております。なお、今週は校内図工展（体育館）、クラブ展（図工室）を開催中です。

11月14日（水）の全校朝会にて、本校学校長が『障害者支援のためのマーク』について話しました。お子さんと一緒に読んでいただいたり、お子さんに分かりやすく語っていただいたりすることで、子どもたちはより深く理解してくれるものと考え紹介します。

全校朝会(11月14日) 「駐車場では、車をとめる所が広くとってあって……」
「何かお困りですか？」 「何かお手伝いしましょうか？」
「目の不自由な子どもでも遊べるように工夫してありますよ」

『 障害者支援のためのマーク 』

おはようございます。11月も中旬に入り、朝夕かなり寒くなってきました。それもそのはずで、実は先週の11月8日は立冬と言って、暦の上では、すでに冬に入っているのです。校長先生は、少し風邪気味になってもう治りましたが、皆さんはどうですか？ 少々の寒さになんか負けず、外で元気に遊んで強い身体をつくりましょうね。

さて、きょうは、人を大切にすることについて考えてみたいと思います。世の中には、足の不自由な人 目の見えない人 耳の聞こえない人など身体の不自由な人たちがたくさんいます。

このような身体の不自由な人のことを難しい言い方で「障害者」と一般的には言いますが、私はこの言い方はなんだか冷たく感じて好きではありません。だから私は、できるだけ「からだの不自由な方」と言うようにしています。

そういう人たちが、少しでも不自由なく、だれでもが安心して生活できるように、世の中には、色々な工夫がされています。きょうは、そのためのマーク・印について紹介します。



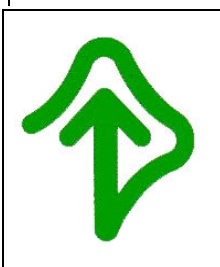
これは、身体の不自由な方々のための国際シンボルマークで昭和59年（1984年）、今から23年ほど前に制定されました。世界共通の印で世界中どこへ行っても同じマークが使われています。車いすに乗っているようすを表しています。この印は、身近なところでは、スーパーや病院などの駐車場やトイレそのほかたくさんの方で見られますね。

駐車場などでは、車をとめる所が広くとってあって、車いすなどで乗り降りするのに便利になっていました。時々、全然不自由でない人が、平気で車を止めていく姿を見かけますが、悲しく思います。



これは、身体の不自由な人が運転している自動車の前と後ろに貼るマークです。手や足が不自由な人たちでも、運転できるように改造してある自動車があるので、そういう人たちの自動車に貼って、ほかの運転手さんに「私は身体が不自由です。協力してください」と知らせています。身体が不自由ですから、曲がったりするときに、ささっと手早くは運転が出来なかつたり、どうしてもゆっくり走ることがあります。

そんなとき、このマークに気づいた他の運転手さんは、道をゆずってあげたり、曲がるのを待ってあげたりして協力することが出来ますね。お家の方が知らなかったらぜひ教えてあげてください。



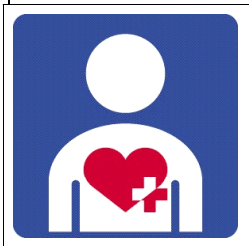
これは、なんのマークか分かりますか？身体はどこかを表しています。はい、これは、耳を表しています。耳が不自由なことを表すマークです。

耳の不自由な方は、この耳マークのカードを持っています。病院や銀行・市役所などに用事で行ったとき、耳が聞こえないから、自分の順番が来たとき、「長野さん」「上田さん」って呼ばれても分からないでしょう。だから、耳の不自由な方は、受付でこのマークのついたカードを見せると、この人が困らないように、係の人が案内してくれたり対応してくれたりするんです。もし、皆さんも、耳の不自由な方がこういうカードを持って困っているのを見かけたら、協力してあげましょう。えっどうやって？

と思うよね。手話も出来ないし。その時は、筆談という方法があります。書いてお話しをすればいいんです。近くにあるメモ用紙でも、自分の持っているノートでもいいので、そこに、「何かお困りですか?」とか、「何かお手伝いしましょうか?」と書いてお話しをすればいいんです。



これは、補助犬マークです。ふつう、レストランやスーパー・デパートなどでは、動物をつれて入ってはいけないことになっているんです。でも、目の見えない人などの中には、盲導犬といってその人を安全に道案内する、とても賢い犬を連れていくことを知っていますね。でも、その人が買い物に行っても、盲導犬と一緒にお店に入ることができなければ、困ってしまいますね。そこで、盲導犬などの人を助けるしごとをする犬を「補助犬」って言うのですが、今では市役所・銀行・病院や電車・バスはもちろん、デパートやスーパー、ホテル、レストランなどに、補助犬といっしょに入ることができるようになりました。このマークのあるお店や補助犬を連れてくる方を見かけた場合は、「犬なんか連れて入って来ないでよ。」なんて言わず、協力できるようにしましょう。



これは、「ハート・プラス」マークと言います。「身体の中に障害のある人」を表しています。たとえば、心臓・肺・おしっこをためる膀胱・おなかの胃や腸などに重い病気を持っている人は、外から見ただけでは分かりにくいですが、病気があるので、みんなのように素早く歩いたり走ったりできず、ゆっくり、そうっと歩いているかもしれませんね。そんなとき周りの人たちは、「なんだモタモタしているなよ。はやくしろよ。」なんて思ってしまうかもしれません。このマークをつけている方を見かけた場合は、身体の中に障害がある人なので、やはりわかってあげて協力をする必要がありますね。



これは、おもちゃにつけるマークで
左が盲導犬マーク（目の不自由な子供用です）
右がウサギさんマークで耳の不自由な子供用です。

この盲導犬マークがついているおもちゃは、“目の不自由な子どもでも遊べるように工夫してありますよ”という印で、右のようなうさぎさんマークのついているおもちゃは、“耳の不自由な子どもでも遊べるように工夫してありますよ”。という印です。今度おもちゃ売り場に行ったら箱などについていますので、さがしてみよう。

最後に皆さんにおもしろいことを教えてあげよう。校長先生は、実はお金持ちなので、ここに一万円札を持っている。私は、目をつぶっていても一万円札も五千円札も千円札も当てる事が出来る。きょうは、お札をあてる方法を教えてあげよう。実は、お札も目の見えない人がさわるだけで分かるように工夫されているんだ。

一万円札…下の両端にL型の出っ張りがある
五千円札…下の両端に●型の出っ張りがある
千円札…下の両端に一型の出っ張りがある

きょう帰ったら、お家の人をびっくりさせてやろう！
大人でも案外知らないんだ。きっと、驚くよ！



○大盛況 安茂里小祭り・参加者数200名を超える

11月17日（土）にPTA7年1組主催による安茂里小祭りが開催されました。朝8時には、すでに10名前後の姿がウサギ小屋付近にありました。その後、続々と集まり、出店30店舗、200名を超える大イベントになりました。体育館内に様々なお店が並び、11時開始と同時に呼び込みの音があちこちから聞こえてきました。参加保護者の方からは「こんなに大きな規模だとは思わなかった」と驚きの声が聞かれました。1時間ほど過ぎると、安売りや値切る声も聞こえはじめ、売り切れの店も出始めました。おなかも空く頃となり食べ物屋さんには列ができました。1時、多くの人が楽しんだ7年1組の企画が終了しました。



○明日の参観日

①人権啓発ビデオ 『地域で暮らそう』 制作：SBC 時間：33分

- ・SO世界大会アスリート中村文茂さん「ベストはつくしたし、誇りに思っている」
- ・アンサンブル伊那（授産施設）「誤解や偏見を解くために……まずは知ること」
- ・学校現場での取り組み「相手の立場になって考える心を育てたい」

②CAPながの様による 『おとなワークショップ』 時間：120分

Child Assault Prevention（子どもへの暴力防止）。CAPプログラムは、自分を大切にする気持ち育てる人権教育です。「おとなワークショップ」では、子どもを援助するために身近にいる大人ができることを考えていきます。《CAPながの様の資料より抜粋》

